

1920年代の ビーズドレス&バッグ

第一次大戦が終結し、1920年代に入った途端に数百年に渡ってヨーロッパの女性たちの身体を拘束してきた固いコルセットが弾け飛んだ。戦時中、男性たちに代わって職場に進出するようになった女性たちの服や下着は、次第にシンプルで機能的なものに変わってきていた。戦後、戦場から戻った男たちのために職場は開け渡さなければならなかったが、女性たちは一度手にした自由は手放さなかった。若い女性たちの間では今までの窮屈な服装規範が一気に崩れて、コルセットが弾け飛んだだけではなく、スカート丈もぐんぐん短くなった。髪も思い切り短いボブヘアが大流行し、美容院にはカットの技術がないので、大拳して床屋へ押しかけ、床屋は対応におおわらわだったのだという。

短いスカート丈のピークは1926年から28年の短期間で、スカートは膝下、袖なしの、ウェストも絞らないシンプルな筒型シュミーズ・ドレスが流行した。暖房設備の進歩が大きいと言われるが理由は分からない。1929年、大恐慌の年には、もうスカート丈が長くなり始め、1930年代は保守化の一途を辿るのだから。今回展示しているものは、ほぼこのピーク時のもので、英米ではフラッパー・ドレス、フランスではギャルソンヌと呼ばれた。

布の両脇を縫い合わせて、頭から被ればよいような、前後も定かでないシンプルな形のドレスの流行で、縫製に高級な技術が不要になり、服のメーカーの多くはパニックに陥った。いろいろのスタイルを提案しても、女性たちは作るのも簡単、手入れも簡単なシュミーズ・ドレスから離れない。そこで、特にイヴニングドレスなどに登場したのがビーズ細工つきのビーズドレスだった。これは、手仕事、針と糸を手にした熟練の縫い子たちの仕事を必要とする。チャールストン、シミー、ブラック・ボトムのような動きの激しいジャズダンスの流行がビーズドレスの流行に拍車をかけた。動きに応じて電飾にキラキラ光るビーズドレスは1920年代ジャズ・エイジの象徴となった。

ビーズは、他にもハンドバッグ、財布、ヘッドバンド、ベルト、バックルなど、いろいろなところに装飾として使われた。特に、この時期のシンプルで、スリムなドレスにはポケットがなかったから、バッグは必需品であった。非常に装飾的なもの、シンプルなドレスに合うアール・デコ調のものなど、さまざまある。



ビーズドレス (緑)
フランス
1920年代



ジャン・パトゥ作
ビーズドレス
1926年頃



イヴニングドレス
フランス



青ビーズドレス
フランス



金レース・ドレス
イギリス